



町田第二地区

“ 歴史は長く、地名は新しい ”

安土桃山時代に発祥した本町田村と江戸時代に生まれた森野村、昭和40年代の新住所表示で誕生した中町と旭町によって構成されています。森野村は、古くは「森村」と書いて「もりむら」「もりのむら」と呼ばれており、江戸時代に「野」をつけて称されるようになりました。



C 井出の沢

水が湧き出る沢だったことが地名の由来。本町田の菅原神社の境内にその面影があります。建武2(1335)年、鎌倉幕府執権だった北条高時の子時行(ときゆき)が信濃で挙兵し(中先代の乱)、この付近で足利軍と大激戦。短期間ですが、鎌倉を奪還しました。「井手の澤の戦い」の記念碑が菅原神社境内にあります。



井手の澤記念碑

名所散策

子ども創造キャンパスひなた村

町田市子ども創造キャンパスひなた村は小高い丘(標高105.8m)にあり、広場やカリヨンホール、屋外炊事場などの施設があり、子ども、団体の活動の場として利用されています。一般の方向けの利用やイベントも行われています。



カリヨンホール

町田市本町田2863 042-722-5736

A 今井谷戸

今井谷戸は七国山のふもとにあり、恩田川の源流の一つがあります。ここに「めいめい谷戸」と呼ばれる地名があり、めいめい谷戸が転化して今井谷戸になったと考えられます。室町時代の文書によると、かつて今井四郎という武士が支配していた「山崎郷内今井村」が大山寺に寺領として寄進されています。現在の「今井谷戸」はこの今井村の名を残しています。



今井谷戸の現在の風景

B 勝負ヶ谷戸

南北朝時代の井出の沢合戦で、侍大将が一騎打ちをしたと伝えられています。現在は「本町田勝負ヶ谷公園」にその名を残しています。



本町田勝負ヶ谷公園



原町田地区

“ 二六の市から発展した商の街 ”

天正10(1582)年に秣^{※1}場であった原野を開墾した人々によって町田村が分かれ、原町田村と本町田村が生まれました。原町田では市が立ち、浄運寺から勝楽寺に至る約1kmの通り沿いに毎月二のつく日に、のちに六の日にも開かれました。生糸の売買が盛んになった幕末・明治の時代に、原町田の商業は飛躍的に発展し、横浜線の開通に伴って近隣地域の商業の中心地となっていきました。



D 永田横丁

原町田2丁目の小さい路地。医師の永田文造が開院していました。

E 仲見世通り

原町田4丁目。昭和22(1947)年に国際マーケットとして発祥しました。戦前の二六の市では古着市が開かれた場所でもあります。

F 金森山宗保院

曹洞宗の宗保院は天文11(1542)年に開山。現在の原町田1丁目にあり、周辺は寺町と呼ばれました。^{※2}山号に金森の地名が付いていることから、この寺ができた頃は原町田村ではなく金森村の土地だったのかもしれません。



金森山宗保院

A 大和横丁

原町田大通りにあった横丁名のうち現在も看板が見られる唯一の横丁。現在の原町田4丁目。原町田で武藤佐太郎が酒造業を営んでいた跡地を、木曾の大和屋が明治41(1908)年に購入し、大和座を建てました。その後、二列に向かい合わせの棟割長屋を造り商店に貸して大和横丁と呼ばれました。



大和横丁

B 川田横丁

原町田4丁目と6丁目の境界の道路。明治中頃創業の川田酒造がありました。現在の町田ジョルナ、元さいか屋の辺り。

C 塩屋横丁・石屋横丁

原町田4丁目と6丁目の境界の路地。明治時代は屋号が塩屋という三橋吉五郎の店がありました。大正期に南大谷の佐藤政五郎商店(精米・製粉・肥料)が店を構えました。清川村から城所という煤ヶ谷石工が来住し、大正期には石屋をしていたので石屋横丁とも呼ばれました。

※1 馬や牛の飼料とする「秣」を刈り取る草地

※2 寺院の称号で、所在する山の名前などがつけられている